

シナプテック 株式会社



●化学・バイオ系研究開発、コンサルティング

- 代表者名 代表取締役 戸田 達昭
- 設立年月日 2008年(平成20年)5月
- 所在地 〒400-0015
山梨県甲府市大手1-2-37 シルクサンシャインC-105
- TEL 055-220-3512
- FAX 055-220-3513
- E-Mail info@synaptech.jp
- URL http://www.synaptech.jp/
- 業 種 研究開発事業
- 資本金額 330万円 ■ 従業員数 6人

インタビュー



最高技術責任者
医工学博士
井上 潤一

テーマ

市場投入型かつオーダーメイド型の専門的洗浄剤提供事業

顧客ニーズに応じた洗剤の試作品の提供を行うとともに、営業および技術情報のクラウド共有により効率化を図り、既存製品では対応できない新規性、独自性の高い製品を開発し、新規の顧客ニーズを獲得した。



シナプテックの洗剤「オイルレッド」

テクノロジーとテクノロジーをつなぎ、テクノロジーと人をつなぐ。そんな想いを込めた、シナプスとテクノロジーを掛け合わせた造語である「シナプテック」を社名とする同社は、山梨大学を卒業したメンバーが、微生物を中心とするバイオテクノロジーを活かして社会に貢献できる事業を展開していこうと、10年前に立ち上げたベンチャー企業だ。

設立当初、事業としてまず取り組んだのが洗剤の開発、販売だった。「開発中のバイオ製剤の製品化まで売るのが何もなく、バイオを活かして洗剤を売ろうということになったんです。当時出回っている洗剤原料の大半は化学物質だったので、バイオ系の洗剤を作り始めました」と最高技術責任者の井上潤一さんは当時を振り返る。

狙ったのは、大手洗剤メーカーとは競合しな

い、市場ニーズに応じた機能性の高い洗剤だ。市場の声を的確に汲み取りながら開発に取り組み、2009年に圧倒的な油剥離効果を持ちながら、天然物由来なので環境に優しく安心安全な洗剤「地球洗剤シリーズ オイルレッド」を発売。油污れやサビ汚れに効果が高い洗剤として調理場や工場などで広く使われ、改良を重ねながら現在も同社の洗剤を代表する製品になっている。

だが、バイオテクノロジーの研究開発、コンサルティング事業をメインに展開している同社にとって、洗剤の開発、販売はメイン事業ではない。ではなぜ今回、洗剤の開発に取り組んだのか。

「営業活動やコンサルティング業務等で訪れた企業で何か困りごとはないかと尋ねると、特殊なものに対応できる洗剤はないかなど、洗剤に関して相談を受けることが多くありました。洗剤は機能性が高まるにつれ、適切なものを選ぶのが難しくなっています。どんな洗剤を使っていいか選択できない、また適切な洗剤が使われていないということが多く、ここ数年で多くの声が集まっていたこともあり、それらの声を活かして解決しようということになったんです」と井上さん。

それは化学・バイオ分野を得意とする同社ならではの事業であり、新たな独自性の高い製品の開発をめざしての取り組みとなった。

小回りの利くベンチャー企業だからできることがある



「オイルレッド」で洗浄した厨房のステンレス素材の洗浄前と洗浄後

まず、お客様ご要望シートを作成して営業時に活用したところ、開発依頼は予想を大幅に超えて100件以上にのぼった。その中で43件について製品開発を行うための検討を実施。最終的に4案件に絞り込んで具体的な研究開発に取り組んだ。

①泥を落としつつ蛍光増白剤を含まずに白みを増大させる洗剤、②衣料クリーニング時に汗や臭

いを落とす前処理用洗剤、③太陽光パネル用撥水撥油性洗剤、④尿石を簡便に除去できる洗浄剤、これら4案件について、それぞれ課題に応じて試作、分析、テストなどを重ねた。

その中で太陽光パネル用洗剤については、依頼のあった企業の現場で何度も検証を実施。汚れの落ち方、水や油分のはじき方などについて先方のニーズに応じながら設計し、現場での経過も観察しながら製品化をめざして研究に取り組んでいる。

現段階で製品化したものはまだないが、井上さんは今回の取り組みで実感したことがあるという。「僕らがここまでの洗浄効果が可能だと打ち出しても、先方はそこまで求めていないこともあり、ニーズの落としどころの難しさを感じました。だからこそお客様に理解し納得してもらった上で使ってもらうのがベストだと実感しました。単に売るのは簡単ですが、最終的にお客様に喜んでもらうことが重要です。個々に合わせた対応ができ、さらにずっと使ってもらえるように対応していけるのは、小回りの利くベンチャー企業だからこそ。そこを大切にしていきたいとあらためて思いました」と深くうなずいた。

山梨から先端技術を発信、発展させていきたい

今回はまた、洗剤の研究開発とともにクラウド構築にも取り組み、成果を得ている。これまで市場ニーズを得てもデータとしてまとめていなかったため、それを具体的に活かすことができずにいたが、今回の取り組みで洗剤の原料となる化学物質や容器、また過去の顧客への対応や使用した原料や化合物の種類などもデータベース化して共有し、ノートパソコンやタブレットでいつでも情報を見られるようにした。

これにより、営業先で出された新しい案件について、開発の指針を提示するのにそれまでは数日を要していたが、半日程度で現実的な回答を提示することができるようになった。また開発時においても原材料の情報などを一瞥して閲覧できるので、効率的に取り組むことが可能だ。さらに開発サイドと営業サイドが常に情報を共有することで、確認作業も効率的にできるようになり、それぞれの仕事に集中できる時間も増えた。

「データベース化したことで、僕らの武器が見えるようになりました。どの武器をどう活かして取り組むかが明確になったことは大きな成果です」と井上さんは満足そうに言う。

同社は来年で設立から10年という節目を迎え

る。「もうよちよち歩きと言っていられません。しっかりと収益を上げて、地域や社会に貢献したいと思っています」と力を込める。

井上さんは国立研究開発法人理化学研究所にも籍を置く医工学博士でもあり、そこに集まってくるバイオの情報や研究に取り組んでいる先端技術を活かしていきたいとも考えている。

「規模が小さく小回りが利き、土地柄的に受け入れの土壤もある山梨は、研究をフィールドで活かす場として適している地だと思います。そんな山梨から先端技術を発信、発展させていくことが目標です」

全国から注目されるような新たな技術が、この山梨から発信されることをめざして、井上さんの、そしてシナプテックの飽くなき研究開発は続く。



シナプテックの社員のみなさん